

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/2階)

事業所番号	2775600519		
法人名	有限会社エフ・エフ産業		
事業所名	グループホームさくら荘		
所在地	大阪府泉南市新家3566-4		
自己評価作成日	令和5年9月12日	評価結果市町村受理日	令和5年12月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年10月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆様に、グループホームさくら荘を認知・活用して頂く為に、地区内に回覧されている毎月の回覧板にて、さくら荘の現状や認知症カフェの事等を報告させて頂いています。回覧板を回覧及び閲覧して頂くことで、顔見知り・馴染みの関係が構築され、何か介護でご心配な事がある時は、いつでも相談に応じられるように取り組んでいます。その行動が、自然と認知症の啓発活動に繋がっています。管理者が、泉南市ライフサポートコーディネーターとして、泉南市の高齢者の生活支援を目指し、生活支援の推進役となり、地域づくりに貢献しています。また、母体の医療法人が、隣の泉佐野市にあり、医療連携が充実しているので、夜間帯に何かがあり、緊急搬送になっても、協力医療機関である母体法人の病院が、適切な判断や処置を行い、診察して頂けます。なので、何かあった時は、安心できます。コロナ禍で現状何かと難しい面もありますが、1年を通じて、季節毎の催し物にもしっかりと取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日欠かさず、業務に入る前の朝礼時には、意識付けが出来るように職員そろって理念を唱和しています。そして常に、入居者様に対して、「その人らしくいきいきと」と生活して頂けるように、職員全員が「その人の思い」を大切にしながら、ケアを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区区長さんがさくら荘の回覧板を地域に回覧して下さいます。そこには、入居者様のご様子や毎月行っている認知症カフェのお誘い等、泉南市で行われている催し物までを、載せさせて頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1度回覧して頂いている回覧板には、認知症という病気の事や地域の医師が行っている認知症カフェのこと、泉南市で取り組んでいるWAO伴の事、認知症予防の事等載せさせて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、2ヶ月に1度、さくら荘内の現状を報告しています。コロナ禍になってから、行政と協議の上地域の民生委員さんや地区区長さん、ご家族様代表には、ご参加いただいております。先月8月も、泉州地域で定点当たりの感染者数が増加傾向の為、運営推進会議を取りやめ、報告書の送付に変更させて頂きました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度、運営推進会議で、いろいろな分からないこと等、相談させて頂いたり、泉南市の行事(ライフコーディネーターや認知症カフェ等で)毎に管理者が参加しているので、その時などに協力要請したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設前の道路は、車の往来も激しく、認知症の方がふらふらしていると跳ねられる可能性も高く、大変危険なので施錠している。このことについては、ご家族様の方々が安心であると喜ばれている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1度、身体拘束・虐待予防委員会を行っています。職員もどれが拘束になるのか、虐待になるかを良く理解しています。以前、入居されておられた方で骨折されているのにそのことを認知できなくて、歩行しようとされた方がベッドから降りて歩こうとされたことがあった時に、家族様のご了承の下、市役所に相談しベッド柵を付けたことがあります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中には、成年後見制度や権利擁護を利用されておられた方が何人かおられたので、よく理解している。又、学ぶ機会があれば外部研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約時、料金の改正の際は、理解して頂くために十分な説明を行い、さらに同意を得たうえで手続きを進めている。解約時も、本人様に十分ご理解頂いた上で行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍以前には、家族交流会を年2回(春・秋)行い、家族交流会後に家族会を開催してもらっていたが、コロナ禍の為、数年開催出来ていません。また、面会についても流行期を見ながら、制限することもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から現場に入り、職員の意見等を聞くようにしている。又、個別に日頃感じている事など、思いや意見を聴いている。そういう職員の思いを、月1回の管理者会議などで報告し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、介護職員の処遇改善支給条件を満たす為の体制を整備し、職員がやりがいを持てるように努めている。職員の評価報告を受け、職員の努力への労い褒めることにも、心掛ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外でへの研修への参加を積極的に促し、費用面での支援も行っている。研修後は、内部研修にて受講内容や知識を周知し、職員全体で伝達研修を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、市のライフコーディネーターになっており、同業者とLINEで繋がっている。分からないこと等、介護業界の仲間との交流により、サービス向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活状況の把握に努めると同時にご利用者様の行動や、発せられる言葉から心配事等を汲み取り支援に繋げて行くように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との関係作りに重点を置き、ご家族様の困っている事や不安要望をお聞きして、ご家族様との信頼関係を築けるように関係作りに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在のご本人の状況を伺い、ご利用者様が必要とする支援を見極め、判断して対応が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者さまの性格を把握し、共に語り笑いお互いに支えあい、信頼できる関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の本人に対する思いを聴き、ご家族様と共にご本人を支えあえるような関係づくりを行うように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の希望が叶う様、ご家族様と相談しながら実施するように努めている。コロナで今は、面会禁止や制限になっているが、ご家族様の了承が得られれば、知人との面会も行っていた。また、ご家族様の了承が得られれば、電話の対応は、大丈夫です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の現状や心身の状態を踏まえ、相性も考慮し、机や席の配置を決めている。必要な時は、職員が間に入り、関係性が保たれるよう助言を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時においても、本人の状態の把握や今後の本人の希望、ご家族の希望を聞き取り、出来る限り希望に添える様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメント及び情報提供を職員間で共有し、把握に努めている。また、本人やご家族様の要望の聞き取りや言葉や態度から希望をくみ取る様、検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや会話の中で発せられる言葉より、情報を得る事も多く、傾聴を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子を記録に残すことで、いつもとの変化を感じとる事が出来ている。変化があれば、職員で情報交換をし共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行うと共に、変化のある入居者様に関しては、都度カンファレンスを行っている。職員同士での意見交換を行い、ケアの方向性の統一が出来るように検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の発言や行動に対して、職員が行った支援助言なども、できるだけ記録に残す様にしている。情報共有することで、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族様が必要と思われる事や、希望している事を確認しながら、通院や買い物など出来る限り対応している。又、遠方のご家族様に代わり市役所などに同行し、書類の手続きなども行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であり、ボランティア等の受け入れを中止している。 (成年後見制度、社会福祉協議会の利用に協力している)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族様の希望を大切にし、病状や変化の観察、月2回の個別往診と月2回の全体往診で、医師に報告しています。状況により、いつでも受診出来るように連携を取っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者が発見した情報や気づきを看護師へ報告することにより、適切な処置や病院受診へと繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関とご家族様と連携し、早期に退院できるように努めています。入院前と退院後での、施設内での生活の変更についても医師と職員間で相談しながら、退院後も安心して生活できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員が状態を常に把握し、情報共有しています。医師と連携を取りながら、ご家族様に現状について伝え、今後の状態の変化に施設としてどう対応していくかを伝えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1度、事故防止委員会で、インシデントや事故の振り返りを情報共有しています。月1回の感染予防委員会では、その時流行している病原や対処法、急変時の対応などを資料や看護師の指導に基づき学習しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼間と夜間を想定して、火災避難訓練を行っている。また、災害避難訓練も地震が起こったという想定で、地区の避難場所まで、誘導訓練も行っています。コロナ禍で最近では、中々出来ずにいます。コロナが落ち着いたら、再び再開していく予定です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、自分がされて嫌な事はしない。認知症を理解し、そのうえで、支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人に合わせて、入浴後の洋服を自身でできる方には、自身で選んでいただき、出来ない方については、一緒に選ぶ等行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気が良ければ、散歩に出かけたり、車でドライブしたりして、季節の花を楽しむ等、臨機応変に出かけたりしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問福祉美容の人が来て下さり、別館で髪のカットや顔そり等、希望に添った髪型にして、もらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは、決められたものばかりでなく、意見を聞いてメニューを考える事も有ります。食材の下処理等、まだまだ上手に包丁を使える方もおられるので手伝って頂き一緒に作ります。もやしのひげ取りなどは、皆さんに手伝って頂き、食後のお盆拭きなどは、入居者様が自主的に拭いて下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考えてくれたメニューを、職員が味付けなど調整し、入居者様のお好みに合うよう作っています。水分量なども、カップ1杯が何CCかを把握しているので、1日を通して、決められた水分量になるよう支援している。メニューにより、多少の食べる量に変化ありますが、一人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の人は、曜日を決めて、漬け置き洗浄を定期的に行っている。朝、晩は必ず、また昼間も自主的にうがいをされたり、歯磨きを丁寧に行っている。口の中の汚れや臭いが生じない様に、口腔ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については、その方の排泄パターンを把握し、時間を見て声掛けを行っている。便秘にならない様に、毎朝牛乳を飲んで、頂いています。また便秘解消の為に、その人に見合った運動(廊下を歩行訓練等)をしている。排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人一人の体調なども考慮し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になると、服薬している薬が効かない等学んでいるが、冷たい牛乳、歩行訓練、お腹のマッサージでも効かない場合、その方の排泄パターンを医師に相談し、下剤を利用している。便秘の原因や及ぼす影響を理解し、運動への働きかけ等予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的に週3回であるが、ご本人の希望により随時入浴できるようにしている。利用者様が、気持ちよく入浴できるように入浴中の会話や、着替えの順番等、色々工夫してスッキリした気分で入浴を楽しめる様に支援している。一人一人の体調や気分等にも合わせ楽しく入浴できる様個々に添った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎朝、日光を浴びると、睡眠・覚醒リズムが整い、質の良い睡眠が得られるようになるので、洗濯物を一緒に干しています。状況を見て臥床時間を設けたり、夜間に入居者のペースで、居室に戻ってもらっている。ストレスにより身体のバランスが崩れたりすることが無い様に、出来る限り本人様の希望に添える様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	絶対に間違えないように、服薬して頂いている。排便、食事摂取量、体調や行動の変化があれば、訪問診療時に、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の趣味が継続されるように、さらに支援している。また、日中トランプや頭を使う遊び等、また季節によって散歩したりして気分転換を図ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の通院援助は、羽原病院だけでなく、白井病院にも、行っています。また6月頃の外出支援の時は、コロナ感染症が下火だったので、アジサイの花見物に出かけました。コロナが流行っていなければ、ドライブ等、季節の花を見に出かけていく様にしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居契約時に、持ち物の中には財布(現金)を持ちこまない様にご家族様にはお願いしていますので、お小遣いは施設のほうで管理させて頂いています。コロナが流行ってしまい、中々買い物に出掛けては頂けてません。以前は、本人様と一緒に買い物に出かけ、本人の望まれる物を一緒に購入することを支援していました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様やご家族様からの要望があれば、電話を可能な限りしてもらっています。ご家族様からの電話に対して話の内容によってはご本人と話してもらう事を支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁飾りを一緒に作って頂いたり、季節の歌を唄ったりしています。毎月カレンダーも作成してもらっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階廊下に長椅子が置かれています。そこには、必ず3~4人の人が集まり、仲良くお話されています。また、リビングのソファでも、くつろぎながら、何人かで集まっていることがあります。一人になりたい時や静養したい時などは、個々の居室にてゆっくり出来るように、居室の空調を調整したりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた筆筒などを使ってもらうようにしています。また、他の方が勝手に入室しない様に見守りを心掛けています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりを設置し、安全に歩行できるように支援しています。また、居室内の家具なども個々の利用者に合わせて配置を行うことで、安心でき、自立した生活が送れるようにしています。		